

社会調査士

「社会調査士」資格取得について

1. 資格の趣旨

「社会調査士」は、世論や市場動向・社会事象等をとらえる調査能力をもつ人に対して「一般社団法人社会調査協会」が認定する資格である。社会の実態を把握するための調査について専門的な知識と実施の技能があることを証明するもので、卒業後の進路において調査や分析、企画職・マーケティング職などに就く上で有利になることが期待されている。国内の多くの大学、さまざまな学部や学科において導入されているが、本学科においてもこの資格の対応科目が設置されている。

資格は大学卒業時に資格対応科目の単位をすべて修得していれば申請できるが、それまでに一定の単位を修得することで「キャンディデイト」資格を在学中に申請することもでき、就職活動に際してアピールすることが可能である。資格についての詳細は、社会調査協会のホームページを参照すること。
2. 資格取得の申請方法・場所

資格取得のための試験等は特になく、大学卒業までに資格対応科目のすべてを修得すること、学部を卒業することで資格取得が可能になる。資格申請にあたっては、指定科目の単位修得を証明する書類と、審査・認定手数料を一定の期間内にそろえることが必要である。在学中の「キャンディデイト」資格についても同様であるが、卒業時に「キャンディデイト」資格から正規の社会調査士資格への変更申請をする必要がある。

資格取得の申請や相談については、新座キャンパスメディアセンター窓口または池袋キャンパスの社会情報教育研究センターで受け付けている。なお、立教大学の学生は「キャンディデイト」資格の申請手数料に関して、一般の大学に比べて減額を受けられる（今年度の申請期間や具体的な手順などについての詳細は、正式決定後に学部掲示板に掲示する）。
3. 資格取得に必要な科目

資格取得のためには資格に対応した科目の単位をすべて修得することが必須である。本学部では社会調査協会が設定したカテゴリA～Gに対応する開講科目がある。ただし、EとFについてはどちらか一方の単位を修得すればよい。

社会調査士カリキュラム	対応科目	単位数	配当年次	備考
【A】 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査概論	2	1～4	現代心理学部心理学科 自由選択科目
	社会調査入門（全学共通科目）	2	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【B】 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査設計法	2	1～4	現代心理学部心理学科 自由選択科目
	社会調査の技法（全学共通科目）	2	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目	統計法1・心理学統計法1	2	1	現代心理学部心理学科 必修科目
	データ分析入門（全学共通科目）	2	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計法2・心理学統計法2	2	1	現代心理学部心理学科 必修科目
	データの科学（全学共通科目）	2	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【E】 多変量解析の方法に関する科目	心理学研究法2	2	2～4	現代心理学部心理学科 学科選択科目
	多変量解析入門（全学共通科目）	2	1～4	全学共通科目 オンデマンド授業・抽選登録科目
【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目	心理学研究法3	2	2～4	現代心理学部心理学科 学科選択科目
【G】 社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査演習	4	3・4	現代心理学部心理学科 自由選択科目・その他登録科目

・ カテゴリー A～E は現代心理学部開講科目，全学共通科目のいずれでも良い。

・ 全学共通科目のカテゴリー A～E はオンデマンド授業（抽選登録科目）なので，履修を希望する場合は「V 履修登録 3 履修届出方法 3. 抽選登録」を参照の上，抽選登録期間に申し込むこと。

・ カテゴリー G は通年科目であるため，春・秋学期ともに必ず履修すること。もし半期のみ履修した場合は，次年度に再度通年の履修が必要となる。

資格取得自体は，学部指定の科目の代わりに，同カテゴリーに指定されている他学部科目・全学共通科目を，学部で修得した他のカテゴリーの科目と組み合わせて申請することも可能だが，卒業に必要な学部の単位と混同しないように注意が必要である。